

田植後の水管理を徹底し 初期生育の促進を図りましょう!!

管内の田植えは天候に恵まれ、連休後半から中旬にかけてピークとなっております。早く田植えした方について苗が活着してきてますが、5月は天候や気温の変動が想定されますので、水管理を万全にして初期生育の確保と分けつの促進に努めて下さい。

◎田植後の水管理について (5月中旬～下旬頃)

①田植直後の管理

- 田植後の1～2日は、植え傷みを少なくする為にやや深水にしましょう。(葉先が2～3cm出る程度)
- その後は水温・地温が最も高く保てるようにやや浅水(約2～3cm)を保ちましょう。

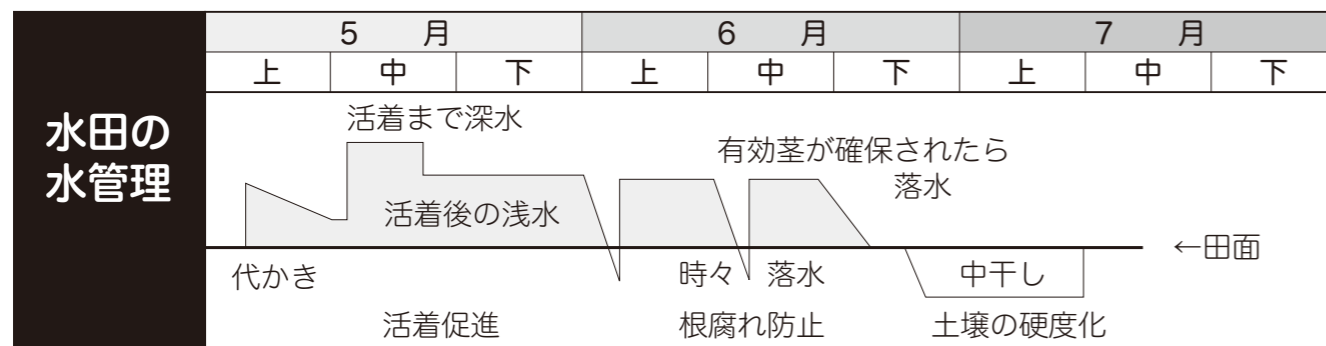
②活着後～分けつ始期の管理

- 低温が続くような場合は、5～6cmのやや深水管理とすること。(強風等も同様です。)
- 天候が良い場合は、浅水管理として水温・地温の上昇をはかり、分けつを促進しましょう。
- 表層はく離(藻類等の発生)が多い水田は除草剤の拡散や水温・地温の上昇に影響しますので下記薬剤を散布して下さい。(モゲトン粒剤→10a当り 2～3kg 表層はく離、藻類発生時に散布)
- 入水は、早朝又は夜間に行い、日中は水田内の水を動かさないで水温を高める様に努めて下さい。

③生わら・未熟堆肥等を施用した水田の注意点

- 気温の上昇とともにガスの発生などにより生育が抑制される場合がありますので、一時的な落水をして根へ酸素を供給するようにして下さい。
- ※「ガス」が多量に発生すると根の養分吸収を阻害し、生育に影響しますので注意しましょう。

《水管理の目安》



◎初中期一発除草剤の散布適期の目安 ※代かきより2週間以内の散布を!!

初・中期一発剤	環境保全米栽培	ボデーガード	1キロ粒剤	移植直後～ノビエ3葉期	
			ジャンボ	移植後5日～ノビエ2.5葉期	
			フロアブル	移植後5日～ノビエ3葉期	
JA米慣行栽培	アピロトップMX (4成分剤)	1キロ粒剤75	ジャンボ	移植直後～ノビエ3葉期	
				移植後3日～ノビエ3葉期	
	ヤイバ	1キロ粒剤	ジャンボ	移植直後～ノビエ3葉期	
		ジャンボ	豆つぶ250	移植後3日～ノビエ2.5葉期	
	クサトリーDX	フロアブル	1キロ粒剤	ジャンボH	移植直後～ノビエ2.5葉期
					移植後3日～ノビエ2.5葉期
	アクシズMX	1キロ粒剤		移植後7日～ノビエ4葉期	

※昨年、休耕している圃場は、早めに除草剤の散布を行ってください。

◎効果の高い上手な除草剤の使い方

水管理

処理時の水深 5cm以上
落水、かけ流しはダメ
7日間止水!!
水尻をしっかりと止める

バック剤・豆つぶ剤・フロアブル等

畦畔からの散布
※短幅30m以内の圃場であれば、圃場に入らず畦畔からのみの散布も可能です。

圃場からの散布
※短幅30mを超える圃場では、圃場に入って散布して下さい。

バック剤・豆つぶ剤

ぬれた手で扱わないでください。
藻や浮草の多発時は散布しないでください。

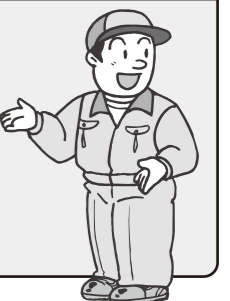
バックが固まっている場合は、手で軽くもみほぐしてから投げ入れてください。

水稲育苗ハウスの後作に野菜等を栽培する場合は注意して下さい!!

⚠️ 水稲箱処理剤の有効成分は長期残効性があります。

水稲育苗ハウス内で箱処理剤を散布した時に、育苗箱から薬剤が地面にこぼれた場合、後作の野菜等から農薬が検出される恐れがありますので十分に注意が必要です。

※地面にビニール等を敷いていると思いますが、箱処理剤が残っている場合は地面にこぼさないように注意することで後作への影響を防止することになります。



平成26年産「環境保全米栽培」の使用薬剤について

水稲用一発処理除草剤 **ポデーガード**

○平成26年産の「環境保全米栽培」は下表の薬剤のみ使用可能となります。

区分	薬剤名(成分名)	成分	適用病害虫・雑草等
種子消毒	温湯消毒処理	0	いもち病・もみ枯細菌病など予防
育苗防除	タチガレン液剤 (ヒドロキシイソキサゾール)	1	苗立枯病・ごま葉枯病・根の生育促進
箱処理剤 ※播種同時処理はできません。	デジタルメガフレア箱粒剤 (殺虫剤 チアメトキサム) (殺菌剤 ピロキロン)	2	◎殺菌剤 → いもち病予防効果。 ◎殺虫剤 → イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ウンカ類、小型カメムシ(穂揃期頃まで)の予防効果。 ※移植3日前～移植当日に散布。
除草剤 (初・中期一発)	ポデーガード剤 ◎いずれか1剤 <粒剤・ジャンボ剤・フロアブル剤> (テフリルトリオン・フェントラザミド)	2	<新規取扱>【ノビエ2.5～3葉期まで】 水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、クログワイ、オモダカ 等
中期除草剤 (補完防除) ①・②・③のいずれかを体系処理	① クリンチャー剤 ◎いずれか1剤 <粒剤・ジャンボ剤・液剤> (シハロポップブチル 1成分)	(2)成分以内	【移植後20日頃～ノビエ4葉期頃散布】 万が一「ノビエ」が残った場合に補完防除 ※ノビエ専用除草剤
	② バサグラン剤 ◎いずれか1剤 <粒剤・液剤> ※落水状態で散布 (ベンタゾン 1成分)		【移植後15～50日頃まで】 オモダカ、ホタルイ、クログワイ等の 補完防除(雑草の草丈が15cm以下頃)
	③ クリンチャーバスME液剤 (シハロポップブチル・ベンタゾン2成分) ※①と②の成分を混合した液剤		【移植後15日～ノビエ5葉期まで】 ノビエと一年生広葉雑草等の補完防除 (ごく浅水状態で雑草へ直接散布する)
殺菌剤	撒粉ボルドー粉剤DL (塩基性硫酸銅)	0	稲こうじ病の予防剤 (銅剤のためカウントはしない。)
殺虫剤	キラップ剤 ◎いずれか1剤 <粉剤DL・粒剤・フロアブル剤> (エチプロール)	1	カメムシ類の防除 ※移植時に「デジタルメガフレア箱粒剤」を使用して穂揃期に体系処理。
農薬成分数	④ 通常の防除体系の場合→	6	
	⑤ 雑草の補完防除をした場合→	(2)	※2成分まで防除可能
	④+⑤=農薬成分の合計	8	←認証シールは8成分の表示となります。

※初・中期一発除草剤をポデーガード剤(2成分)に変更致しました。(去年はヤイバ剤)
 ※雑草の補完防除対策として「2成分」(クリンチャー剤・バサグラン剤)が使用できます。
 ※上記以外の薬剤を使用した場合は「環境保全米」ではなく「JA米」として取扱うこととなります。

⚠ 水稲直播栽培については、通常の「JA米」として栽培計画をお願い致します。

■ 適用雑草と使用方法

(2013年7月現在の登録内容)

ポデーガード 1キロ粒剤 テフリルトリオン 3.0%、フェントラザミド 3.0% 農林水産省登録:第22612号

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	使用回数*	使用方法	適用地帯	
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ(北海道、東北) ミスガヤツリ(北海道を除く) ウリカワ ヒルムシロ セリ クログワイ(北海道を除く) オモダカ エゾノサヤヌカグサ(北海道) シズイ(東北)	移植時	壤土 と 埴土	1kg/10a	本剤 1回	田植同時 散布機で施用	東北、 関東・東山・東海、 近畿・中国・四国の 普通期栽培地帯	
		移植直後～ノビエ 3葉期 (東北は2.5葉期まで) ただし、移植後30日まで						
		移植後5日～ ノビエ 3葉期 (北海道、東北は 2.5葉期まで) ただし、 移植後30日まで	砂壤土					テフリルトリオン 2回以内
フェントラザミド 1回								全域の普通期 及び 早期栽培地帯

ごくまれに水稲に白化症状が認められる場合があります。しかしながら、その後は正常な葉が伸展してくるので、生育に影響を及ぼすことはほとんどありません。

ポデーガード フロアブル テフリルトリオン 5.8%、フェントラザミド 5.8% 農林水産省登録:第22616号

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	使用回数*	使用方法	適用地帯	
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ(北海道、東北) ミスガヤツリ(北海道を除く) ウリカワ クログワイ(北海道を除く) オモダカ ヒルムシロ セリ エゾノサヤヌカグサ(北海道) コウキヤガラ(関東・東山・東海、九州) シズイ(東北)	移植後5日～ ノビエ 3葉期 ただし、 移植後30日まで	砂壤土 と 埴土	500ml/ 10a	本剤 1回	原液 湛水散布 又は 水口施用	全域の普通期 及び 早期栽培地帯	
								テフリルトリオン 2回以内
								フェントラザミド 1回

本剤が多量に稲体に付着した場合に、付着した葉ならびに直後に伸展してくる新葉1～2枚に白化症状が認められる場合があります。しかしながら、その後は正常な葉が伸展してくるので、生育に影響を及ぼすことはほとんどありません。なお、ノズル散布をした場合、白化症状が強くなる場合があります。

ポデーガード ジャンボ テフリルトリオン 7.5%、フェントラザミド 7.5% 農林水産省登録:第22617号

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	使用回数*	使用方法	適用地帯	
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ(北海道、東北) ミスガヤツリ(北海道を除く) ウリカワ クログワイ(北海道を除く) オモダカ ヒルムシロ セリ エゾノサヤヌカグサ(北海道) コウキヤガラ(九州) シズイ(東北)	移植後5日～ ノビエ 2.5葉期 ただし、 移植後30日まで	砂壤土 と 埴土	小包装 (パック) 10個 (400g)/ 10a	本剤 1回	水田に 小包装 (パック) のまま 投げ入れる	全域の普通期 及び 早期栽培地帯	
								テフリルトリオン 2回以内
								フェントラザミド 1回

ジャンボ剤のパックが固まっている場合は、手で軽くもみほぐしてから投げ入れてください。拡散が不十分な場合などに、まれに水稲に白化症状が認められる場合があります。しかしながら、その後は正常な葉が伸展してくるので、生育に影響を及ぼすことはほとんどありません。

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

■ 目安となる処理時期

※剤ごとの適用雑草、使用方法を守って使用してください。

使用時期は移植後5日から、ノビエ2.5～3葉期までです。一発処理の目安を日数で示しました。ノビエの発生状況を確認して散布してください。

